

[別紙 2]

審査の結果の要旨

氏 名 今 村 由 香

本研究は、がん専門診療施設を退院した在宅療養早期の終末期がん患者の QOL、患者の在宅療養継続意思および介護者の在宅介護継続意思の実態とそれらの関連要因を明らかにしたものである。終末期がん患者とその全介護者 92 組を対象者とし、自記式質問紙による郵送法と診療記録の閲覧により得られたデータを統計学的に分析し、以下の結果を得ている。

1. 患者の QOL とその関連要因について

QOL (FACT-G) の全ドメイン、すなわち、「身体的健康感」「社会的健康感」「精神的健康感」「機能的健康感」に対する階層的重回帰分析を行った。

その結果、患者の「介護者との関係」が関連要因として示された。患者が「介護者との関係」を良好であると感じているほど QOL 各ドメインにおける健康感が高くなっていた。特に、社会的健康感の高さとその良好さとの関連が強く示された。

また、「医療処置数」は患者の QOL、3 つのドメインとの関連が示された。身体面、精神面、機能面に医療処置による負担感が影響する可能性が高いことが示唆された。

さらに患者の QOL に患者の期待していた療養生活との一致感、退院準備充足度といった「患者退院関連情報」との関連が示された。

2. 患者の在宅療養継続意思とその関連要因について

階層的ロジスティック回帰分析の結果、在宅療養継続意思には「医療処置数の少なさ」「患者の期待していた療養生活との一致感の高さ」「機能的健康感の高さ」「介護者の生活満足感の高さ」が関連を示していた。

3. 介護者の在宅介護継続意思とその関連要因について

階層的ロジスティック回帰分析の結果、在宅介護継続意思には「患者の期待していた療養生活との一致感の高さ」「社会的健康感の低さ」「介護者の期待していた療養生活との一致感の高さ」「介護者が健康であると感じていること」が関連

を示していた。

4. 上記2、3の関連要因のうち、患者の「期待していた療養生活との一致感」が患者および介護者の在宅での継続意思に共通して関連していた。このことから、期待していた療養生活と実際の療養生活のずれがおこらならないような退院支援が重要であると考えられる。
5. 終末期がん患者のQOLおよび在宅療養継続意思、介護者の在宅介護継続意思への関連要因を検討した解析モデルより、これらには患者の要因だけではなく「介護者の状況」による要因の影響が示唆された。

以上、本論文では、がん専門診療施設を退院した在宅療養早期の終末期がん患者のQOLおよび在宅療養継続意思、介護者の在宅介護継続意思の実態把握とその関連要因の探索を行ったものである。患者が在宅療養を継続していくためには、患者だけではなく介護者も含めた、入院中からの退院時の支援、在宅療養中に生じる問題に対応できるよう外来相談支援体制の整備拡充の必要性が示唆された。

本研究は、在宅療養中の終末期がん患者に関する情報が不十分な現状を踏まえて行った研究である。在宅療養を継続していく上で重要と考えられる在宅療養早期に焦点をあて、実態を把握した点、および患者だけでなくその介護者からも合わせて情報収集・分析した点で独創性が高い。終末期がん患者が在宅療養を継続していくための具体的支援内容を示唆したという意味から臨床的有用性が高く、学位の授与に値するものと考えられる。